



第3期下京区基本計画 (2021～2025) (素案)

目次

1	計画の位置付け・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2	第3期基本計画の概要	
	（1）計画の全体構成・・・・・・・・	2
	（2）策定にあたっての基本的な考え方・方針・・・・・・・・	3
3	下京区の特徴・魅力・・・・・・・・	4
4	下京区で進むまちづくりプロジェクト・・・・・・・・	5
5	下京区の現状と課題・・・・・・・・	6
6	下京区がめざすまちの姿・スローガン・・・・・・・・	10
7	重点戦略	
	【戦略1】人口減少に立ち向かう地域コミュニティづくり・・・・・・・・	12
	【戦略2】はぐくみ文化の創造・推進・・・・・・・・	14
	【戦略3】誰もが生き生きと暮らせるまちづくりの実現・・・・・・・・	16
	【戦略4】環境と調和した暮らしが根付く持続可能なまちづくり・・・・・・・・	18
	【戦略5】危機にしなやかに対応し「いのちとくらし」を守るまちづくり・・・・・・・・	20
	【戦略6】京都の元気をけん引するまちづくり・・・・・・・・	22
8	計画の推進にあたって・・・・・・・・	25
9	参考資料・・・・・・・・	27
	（1）計画策定の経過	
	（2）京都市下京区民まちづくり区民会議委員名簿	
	（3）京都市下京区民まちづくり会議部会委員名簿	

1 計画の位置付け

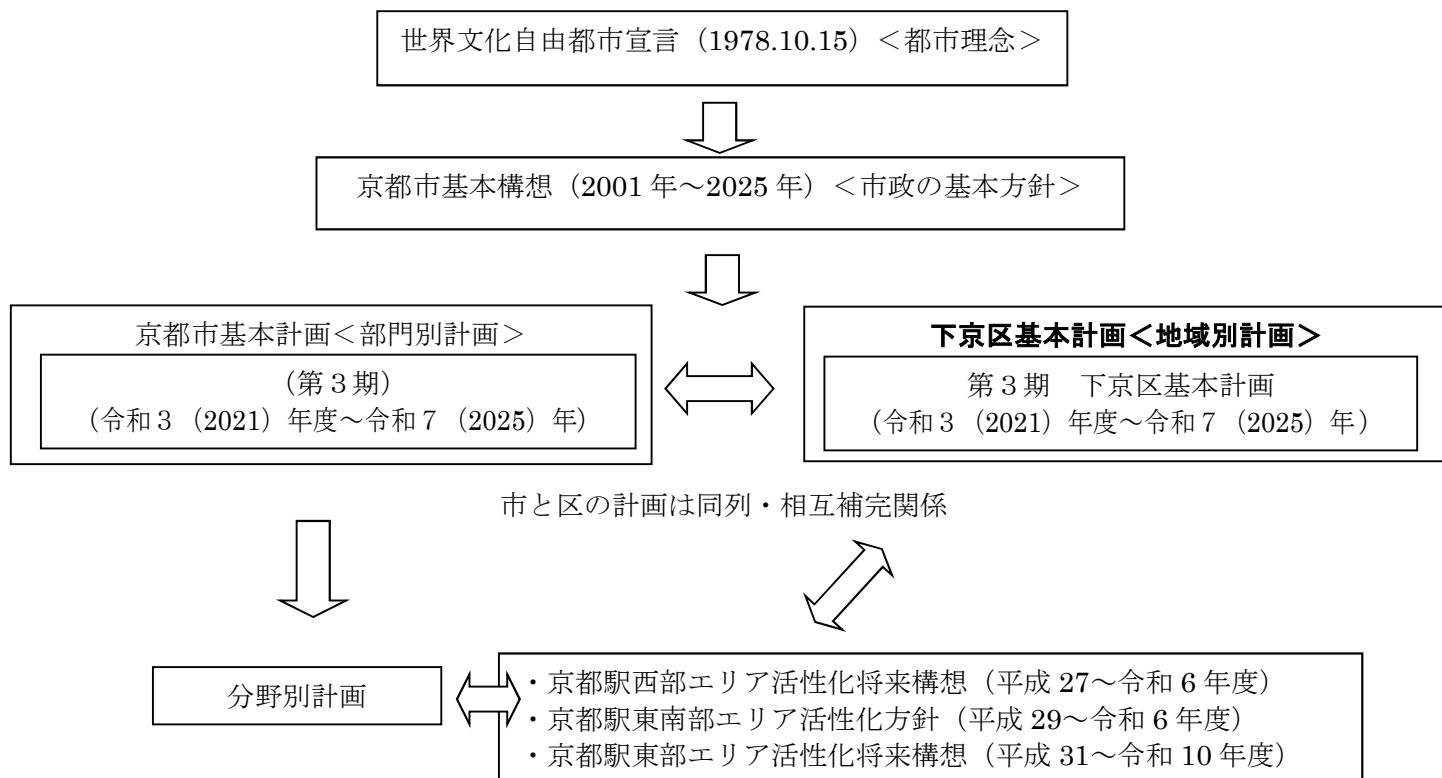
下京区では、平成23年3月に策定した「第2期下京区基本計画」（計画期間：平成23年度～令和2年度の10年間）に基づき、「人と人との絆をつなぐ」「まちの資源や魅力をつなぐ」「歴史と伝統を未来につなぐ」の各テーマにおいて、めざすまちの姿の実現に向け、区民の皆さんとともに計画に掲げる取組を着実に進めてきました。

この間、各地域で工夫を凝らしたまちづくり活動が展開されるとともに、梅小路公園を中心とする京都駅西部エリアでは、水族館・鉄道博物館や新駅の開業などにより、まちに賑わいが創出され、京都駅東部エリアでは京都市立芸術大学の移転が決定し、文化を基軸としたまちづくりが進んでいます。また、平成31年3月に下京区制140周年を迎え、区民や事業者の皆さんの参画・協力のもと多彩な記念事業※が展開され、「自分ごと、みんなごとのまちづくり」が大きく前進しました。

一方、地域活動の担い手の高齢化や少子化の進行、観光客の増加とそれに伴う宿泊施設の急増、災害の頻発、新型コロナウイルス感染症拡大など、地域を取り巻く新たな課題も生じており、それらの解決に向け、各主体が一層連携と協働を進めていく必要があります。

第3期下京区基本計画は、これら課題への対応と、第2期計画で取り組んだ成果やこれまで培われた区民、団体、事業者等の絆を活かし、次の下京区制150周年、そして100年先の未来に向けて、下京区のまち全体の活性化につながる取組をより一層推進するため、下京区民まちづくり会議や同部会等での議論を踏まえ策定するものです。

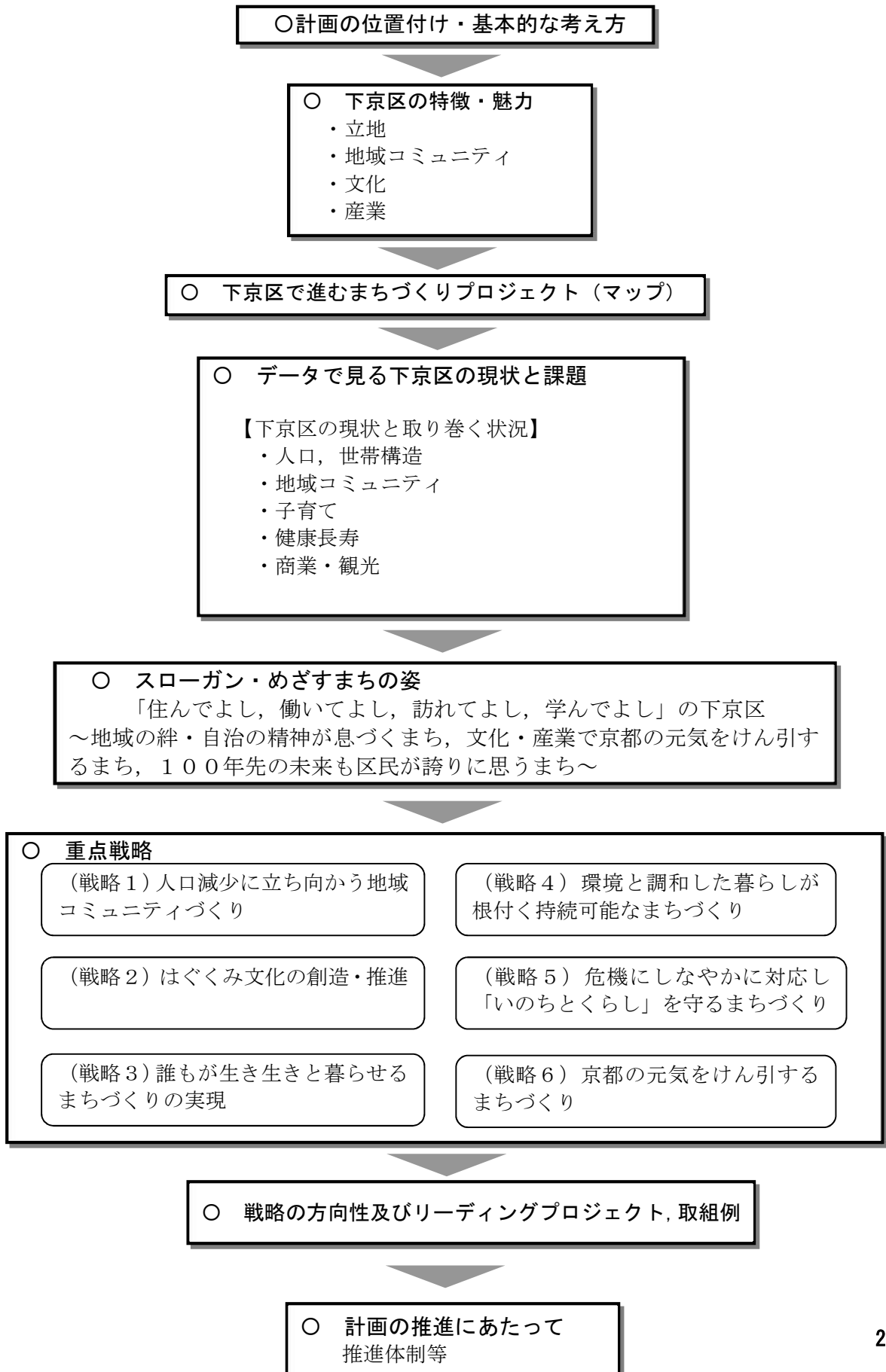
なお、この計画は令和7年までの京都のグランドビジョンである「京都市基本構想」に基づく地域別計画であり、全市的観点から取り組む主要な政策を示す「京都市基本計画」と同列・相互補完の関係となっています。基本構想の終期が令和7年であり、市基本計画と一体となって政策を進めていくため、計画期間は市基本計画の計画期間に合わせて令和3年度から令和7年までの5年間とします。



※ 下京区140周年記念事業：下京区制140周年（平成31年3月）を迎えるに当たり、平成30年から「100年先の未来のために はじめよう！自分ごと、みんなごとのまちづくり」を共通テーマに、区内各地で実施された事業。

2 第3期基本計画の概要

(1) 計画の全体構成



（２）策定に当たっての基本的な考え方・方針

- 京都市基本計画に掲げる、「レジリエンス※」や「SDGs※」、「文化力」など、分野横断的によこ糸をつむぎ足すとともに、「人口減少」、「少子化対策」等に取り組み、持続可能で豊かな地域社会を構築します。

京都市基本計画では、人口減少や、レジリエンス、SDGsの重要性の高まりなど分野横断的な時代潮流を踏まえ、長年にわたり育んできた市民力・地域力・文化力を生かし、生活者を基点に、参加と協働で未来を切り拓くことを都市経営の理念に据えています。

下京区基本計画においても、それらの理念を計画全般に反映させ、持続可能な地域づくりを志向します。



- 下京区誕生 140 周年記念事業を通して培われた区民、団体、事業者の絆をいかして、「自分ごと、みんなごとのまちづくり」をより一層推し進め、次の 150 周年に向けて京都のまち全体の活性化につなげるものとします。

下京区は、平成 31 年 3 月に区制誕生 140 周年を迎えました。これを記念して、「100 年先の未来のために はじめよう！自分ごと、みんなごとのまちづくり」を共通テーマに、200 を超える多彩な記念事業が、区内 23 学区、団体、企業等の協力により行われ、連帯の輪が大きく広がりました。これらの成果を、次の 150 周年という節目に向けて、京都のまち全体の活性化につなげられるよう取り組みます。

- 「ウィズコロナ」※「アフターコロナ」※を見据えた「しなやかな強さ」を兼ね備えた地域づくりを推進します。

祇園祭がさまざまな困難による中断を乗り越え、復活、今日まで継承されてきたことに象徴されるように、下京区民はこれまで幾多の困難を克服し、町衆による自治の精神のもと、地域の伝統、祭を継承してきました。

令和 2 年、新型コロナウイルス感染症拡大という、誰もが想定し得なかった重大な危機に地域は直面しました。人と人とのコミュニケーションはままならず、地域の活動や人々の生活、精神は大きな影響を受け、下京区内でも飲食店、商店や観光関連をはじめとする産業は存続の危機に立たされました。

今、「ウィズコロナ」から「アフターコロナ」を見据え、また、近年激甚化する災害等に対し、下京区民の困難を克服する「共助の力」で、これらの危機を乗り越え、「しなやかな強さ」で復元する持続可能な地域づくりを区民の皆さんとともに進めていきます。

※ レジリエンス：さまざまな危機からの回復力、復元力、強靱性（しなやかな強さ）を指す。

※ SDGs：国連持続可能な開発サミットにおいて採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に掲げる持続可能な開発目標（SDGs）のこと。17 のゴールと 169 のターゲットからなる。

※ ①ウィズコロナ、②アフターコロナ：①は、コロナ禍でワクチンや特効薬など、ウイルスを効率的に閉じ込めるツールを社会が獲得するまでコロナと共存することを示す言葉として、②は、ワクチンや特効薬が開発されて、状況のある程度コントロールできる状態を示す言葉として使用する。

3 下京区の特徴・魅力

(1) 京都の賑わいの中心地

- ①下京区は市内11区で最もコンパクトな区域に、1日63万人の乗降客※が行き交う京都の玄関口である京都駅をはじめ、四条烏丸、四条河原町など京都市の商業・ビジネスの中心地を擁し、公共交通網が発達し移動に大変便利な地域です。東には鴨川、西には梅小路公園があり、豊かな自然にも恵まれています。
- ②京都駅西部エリアの梅小路公園には京都水族館や京都鉄道博物館など広域的な集客施設のほか、新駅や商業・宿泊施設等の新規開業により新たな賑わいが創出されています。一方、京都駅東部エリアは京都芸大の移転を控え、文化・芸術を核とした新たなまちづくりが進められています。

(2) 23学区から成る地域コミュニティ

- ①下京区は23の学区で構成され、各学区では自治連合会、市政協力委員連絡協議会、各種団体等の活動のもと、自治会、町内会を中心とした地域コミュニティが形成され、豊かな日常生活やまちづくり、防災など住民生活の安心安全を支える基盤となっています。
- ②東部は都心部を中心に昔ながらのコミュニティが形成されたまちである一方、西部は住宅・マンションの開発等により、若い世代が流入し、人口増加が見られる地域です。複数の学区で歴史文化資産等まちの資源・魅力を活かした取組や地域課題解決に向けたまちづくり活動が活発に展開されています。

(3) 伝統が息づく文化

- ①祇園祭の山鉾町や番組小学校に代表される町衆の気概・精神が連綿と受け継がれ、地域の文化、教育、産業、コミュニティの形成に活かされています。
- ②東西両本願寺など全国に宗派寺院を擁する仏教の本山が多く立地し、わが国宗教文化の一大拠点となっており、仏教関連の伝統産品を扱う店等で門前町が形成されています。
- ③島原に代表されるように街の随所に歴史的な景観、建物、文化遺産があり、近年は伝統的な街並みに溶け込む物販・飲食店やオフィス、宿泊施設などが多数立地。新たな文化を発信し、若者や観光客を惹きつけています。

(4) 京都経済をけん引する産業

- ①生鮮食料品等の流通を担う基幹的インフラである京都市中央市場があり、京都駅や四条通周辺には京都の主要百貨店をはじめ商業施設が集積。京都経済の一翼を担っています。
- ②町衆の生活文化や宗教文化を支えるものづくりや商業の拠点として発展した町であることから、伝統産業を守り、つなげる職人や商店が多く存在します。
- ③京都経済活性化に向けた新たな拠点として、「交流と融合」の場を提供する京都経済センターが平成31年に開館。また、多くの産業支援機関が集積する京都市リサーチパークや創業・イノベーション拠点「淳風 bizQ(じゅんぷうびずく)」を中心として、次代を担う京都企業を創造する「ベンチャーのまち」としての役割も担っています。

※ 1日63万人の乗降客：平成30年のJR西日本、近鉄、市営地下鉄の合計人数（JR東海の新幹線を除く）

5 下京区の現状と課題

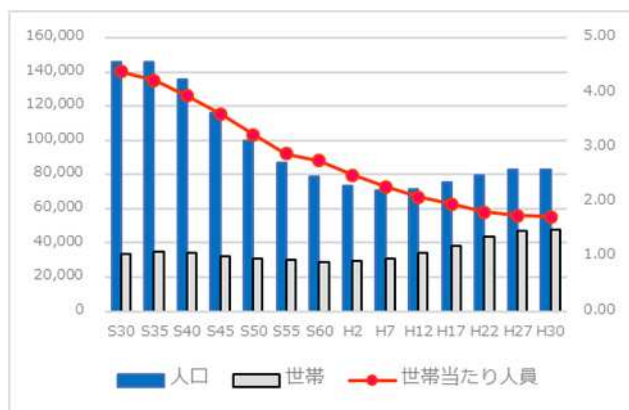
(1) 下京区の現状と課題

① 人口・世帯構造

○他行政区と比べて昼間人口比率が最も高く、区外から訪れて活動・交流する人材を次世代の担い手として育成する必要があります。

○単独世帯の増加や 8050 問題※, 潜在しているひきこもりについて早期相談につなげる環境づくりをし、地域や社会からの「孤立化」を防ぎ、災害時の要配慮者への対応や地域での見守り活動を促進することが求められています。

◆人口・世帯



出典：各年国勢調査，平成30年は京都市による推計人口(京都市統計書)より作成

- ✓平成7年を境に人口増加に転換
- ✓世帯あたりの世帯人員は縮小が進行

◆将来推計人口



出典：国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）』より作成

- ✓下京区の人口は、今後しばらく微増が続き、2035年（89,727人）をピークに減少
- ✓人口総数が減少に転じた後も、高齢人口（65歳以上）は増加が継続と予測

◆昼夜間人口比率

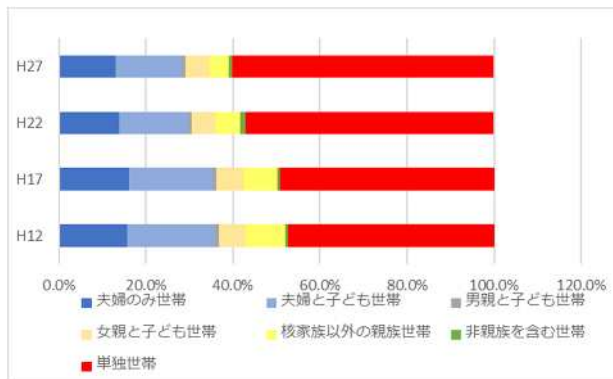


出典：平成27年国勢調査より作成

- ✓昼間人口比率は11区の中で最も高い状態が継続

※ 8050 問題：80 代の親と長期化したひきこもり等の 50 代の子の問題

◆家族類型別世帯数



出典：各年京都市統計書より作成

✓世帯類型でも単独世帯
(一人世帯) が増加

◆住宅の建て方・共同住宅比率



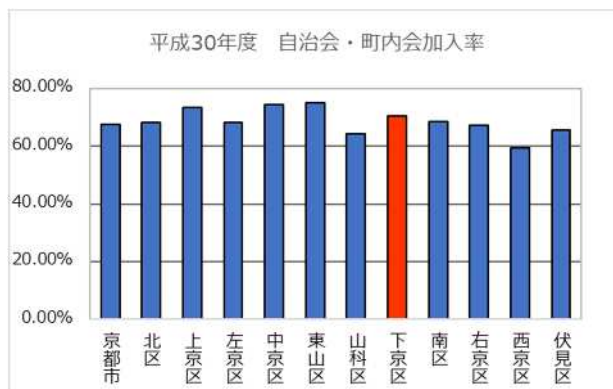
出典：各年国勢調査より作成

✓共同住宅が急増し、平成
27年には70%以上を占有

②地域コミュニティ

- 自治会加入率の低下や担い手の高齢化などにより、地域が持つ「共助」の力の衰退が懸念されることから次世代の新たな担い手づくりが求められています。
- 自治体活動等においてもリモートワークによる働く世代の地域への回帰の機会を捉え、若年層のコミュニティへの参加を促進させるとともに、助け合い、支え合いによる共助コミュニティを再興する必要があります。

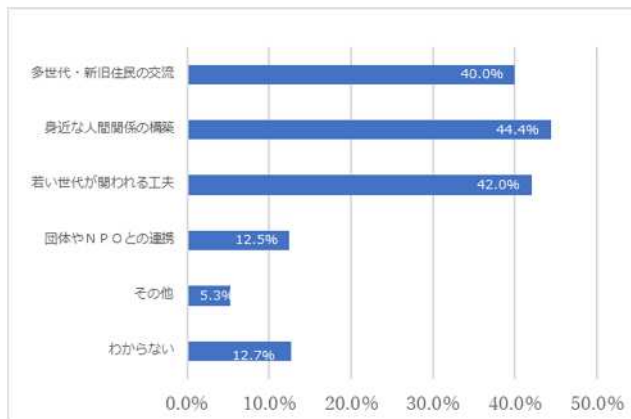
◆自治会・町内会加入率



出典：京都市「自治会・町内会アンケート（平成30年度）」より作成

✓自治会・町内会加入率はわずかに低下傾向にあったが、平成30年、上昇に転換
✓他の都心区（上京・中京・東山）とともに市全体を上回る。

◆コミュニティ活動を維持するために必要なこと（複数回答）



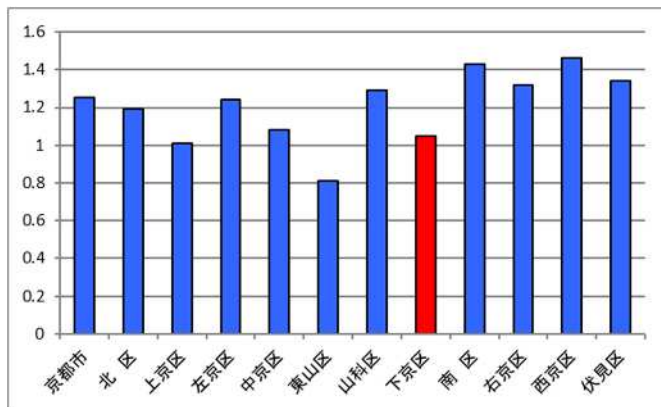
✓「身近な人間関係の構築」「若い世代が関われる工夫」「多世代・新旧住民の交流」のそれぞれに強い期待

出典：第2期下京区基本計画に関する区民意識調査（平成30年度）より作成

③子育て

○少子化の進行やライフスタイルの変化，コミュニティの多様化による人と人とのつながりの希薄化に対し，個々の状況に応じたきめ細かな支援が求められています。

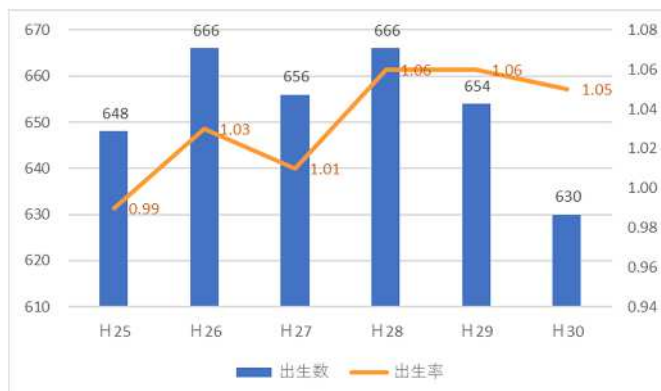
◆行政区別出生率



✓合計特殊出生率※は，長年に
微増傾向も近年は横ばい。
✓東山（0.81），上京（1.01）
に次いで低い。

出典：平成30年「京都市の合計特殊出生率」より作成

◆下京区の出生率・出生数の推移



✓下京区の出生数は，ここ近年
では，平成30年が最も少なくな
っており，また，全国，京都
府においても統計開始以降最も
少ない結果となっている。

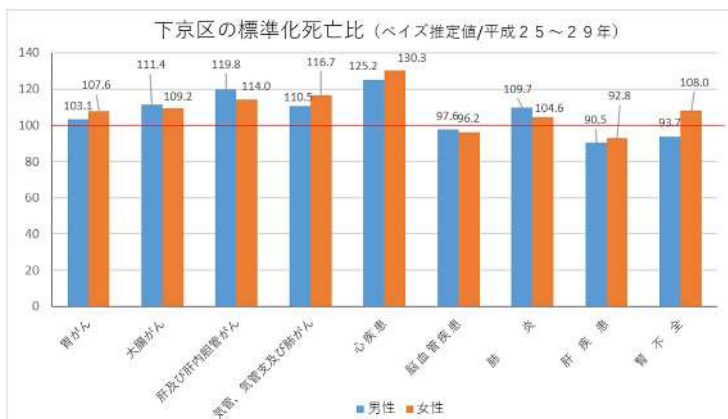
出典：「京都市衛生年報令和元年版」より作成

※ 合計特殊出生率：一人の女性が一生に産む子どもの数を表す数値

■健康長寿

○心疾患，特に狭心症や心筋梗塞等に加え，がん（胃，大腸，肝臓，肺）等の生活習慣病による死亡比が高い。禁煙，適度な運動や食習慣の改善といった健康課題への対策が求められています。

◆標準化死亡比



✓心疾患の標準化死亡比は，女性^①は市内ワースト1，男性は市内ワースト3。

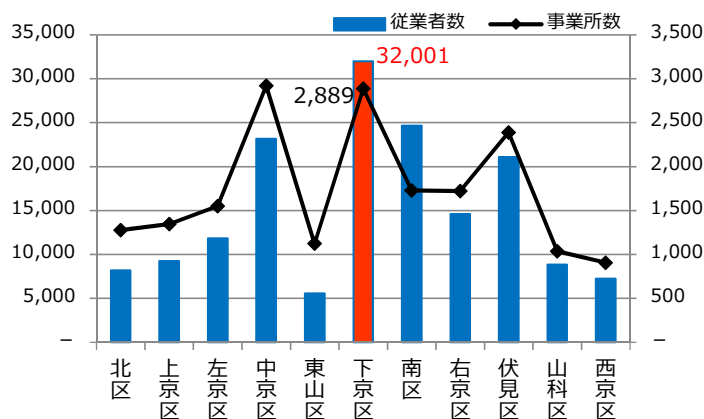
✓がんの標準化死亡比は高いが，概ね改善傾向にある。

（参考）全国市区町村別主要死因別標準化死亡比の推移 2009～2018 年

⑤商業・観光

○卸・小売業の規模が市内一と商業の中心地である下京区は，梅小路公園周辺の賑わい施設の集積や京都芸大の移転等による京都駅西部・東部エリアの活性化のほか，新産業の創出拠点等のポテンシャルをいかし，京都全体の活性化をけん引していくことが求められています。

◆行政区別 卸・小売業の事業所数・従業者数

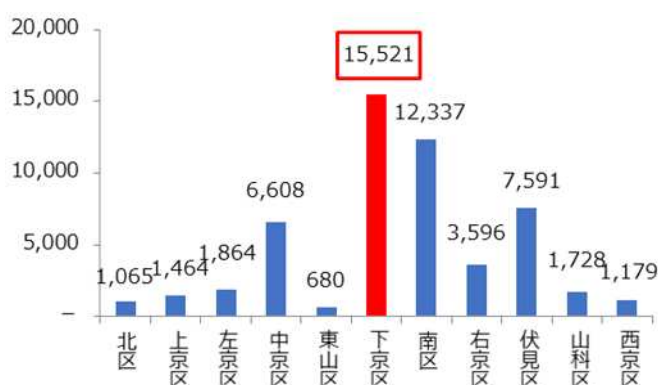


※出典：平成28年経済センサス活動調査より作成

✓卸・小売業の事業所数は，中京区に次いで2番目に多く，約3,000事業所がある。

✓卸・小売業の従業者数は，全行政区で最も多く，2番目の南区より，7,000人以上多い。

◆行政区別 卸・小売業の年間商品販売額



※出典：平成28年経済センサス活動調査より作成

✓卸・小売業の年間商品販売額は，下京区は全行政区の中で最も高く，市全体の3割弱を占める。

6 下京区がめざすまちの姿・スローガン

(1) めざすまちの姿

① 地域の絆・自治の精神が息づくまち

明治2年の番組小学校を誕生させた町衆の人づくりにかける思いと、地域の絆により幾多の試練を乗り越え再生してきた先人たちの自治の精神は、今も下京区23学区に脈々と受け継がれています。それらの歴史と伝統を背景に、地域コミュニティにおいては自助、共助、公助の力が発揮され、地域の絆・自治の精神が息づき、未来に受け継がれるまちを目指します。

② 文化・産業で京都の元気をけん引するまち

下京区が育んできた町衆文化、宗教文化、産業文化、伝統産業など暮らしに息づく文化と、商業施設や賑わい施設が集積し、国際文化観光都市・京都の玄関口として、京都の活力を担う下京区。新たな賑わいや交流、産業、文化を創出し、京都の元気を一層けん引するまちを目指します。

③ 100年先の未来も区民が誇りに思うまち

100年後の未来を見据えて、より一層「住み続けたい」「働き続けたい」「また訪れたい」「学び続けたい」と思える、魅力あふれる下京区を実現するため、140周年を機に大きく前進した「自分ごと、みんなごとのまちづくり」を次の150周年、さらに100年先の未来に継承・発展させ、いつまでも区民が誇りに思うまち・下京を目指します。

(2) スローガン

「住んでよし、働いてよし、訪れてよし、学んでよし」の下京区

～ 地域の絆・自治の精神が息づくまち

文化・産業で京都の元気をけん引するまち

100年先の未来も区民が誇りに思うまち ～

7 重点戦略

第3期下京区基本計画においては、下京区の現状・課題や現下の社会情勢を踏まえ、京都市基本計画に基づき、レジリエンス、SDGs、文化力、アフターコロナをよこ糸に、区民の皆さんとともに進めていくべき政策分野として、以下の6つを重点戦略として設定し、下京区がめざすまちの姿を実現するための取組を推進していきます。

【戦略1】人口減少に立ち向かう地域コミュニティづくり

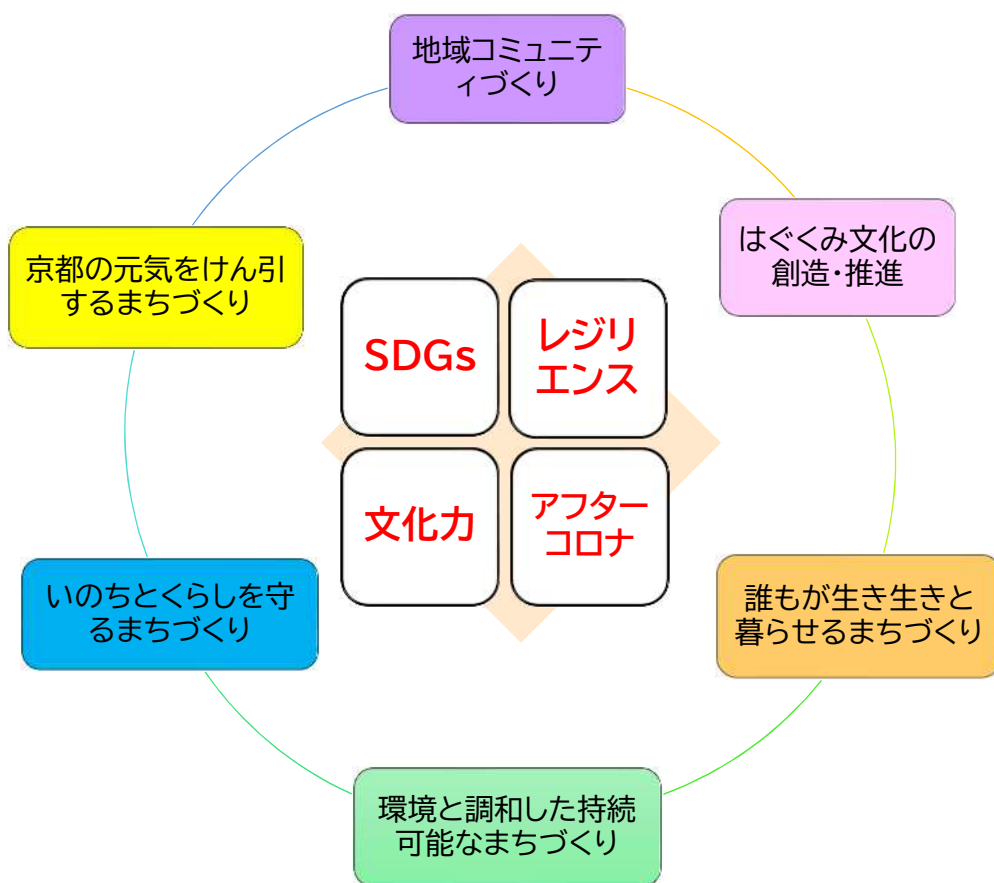
【戦略2】はぐくみ文化の創造・推進

【戦略3】誰もが生き生きと暮らせるまちづくりの実現

【戦略4】環境と調和した暮らしが根付く持続可能なまちづくり

【戦略5】危機にしなやかに対応し「いのちとくらし」を守るまちづくり

【戦略6】京都の元気をけん引するまちづくり



次頁以降の各戦略においては、重点的・先導的に進める取組を「★リーディングプロジェクト」に位置付け、区役所と区民・事業者・団体等の協働により、計画期間において着実に推進していくことをめざします。

また、各戦略の推進施策の柱ごとに、施策を具体的に進めるための「取組例」を掲げ、各主体がさまざまな検討を重ねながら実現に努めることとします。

戦略 1 人口減少に立ち向かう地域コミュニティづくり

【方向性】

地域に関わる各種コミュニティの活性化に向け、多様な担い手による主体的なまちづくりを促進・支援し、自治会・町内会をはじめとする地域と、事業者・NPO・行政等が連携して地域課題を解決できるまちをめざします。

★リーディングプロジェクト

★地域の事業者や外部（NPO、大学等）の方が町内会活動に参加しやすい仕組みづくり（1）

地域の ICT 化支援など、地域課題の解決に資する取組に事業者や外部（NPO、大学等）の方が協力することで町内会活動参加へのきっかけとなるよう支援します。

★学区における「まちづくり委員会」の設立・活動支援（2）

区内で既にまちづくり委員会※を設立し、活動している学区の事例などを紹介し、他学区の設立に向けた機運醸成を図るとともに、設立に向けた準備活動や設立後の活動支援を行います。

★まちづくりサポート事業「SHIMOGYO+GOOD」※による社会・地域課題解決の推進（3）

団体、事業者等のまちづくり活動への助成とともに、活動へのアドバイスや団体間の交流機会の提供を通じて、活動の充実・発展を支援し、社会・地域課題解決を促進します。

【推進施策】

（1）まちづくりを担う人づくり

地域活動の ICT 化、地域情報の発信・共有の推進やリモートワークによる働く世代の地域への回帰等を契機として、地域活動への若い世代の参画、事業者や学生など地域住民以外の多様な人・団体が参加・活動しやすい仕組みづくりを支援します。

<取組例>

- 自治会、町内会の ICT 化、地域会議のオンライン化支援（地域活動の効率化、若年・壮年世代が入りやすいまちづくり）
- 学区情報の発信と情報共有、課題が共通する学区間の交流促進（下京総合 Web サイト（仮称）の活用）
- 次世代の地域の担い手育成、地域行事への参加促進
- 企業が自治会、町内会に入りやすい仕組み、地域活動に参画できる仕組みづくり（企業の若い社員の巻き込み）
- 空き家等を活用した都心お試し居住住宅の提供、自治会参加等を前提とした学生居住推進

凡例 ●：ウィズコロナ・アフターコロナ社会において社会課題を解決するための取組

※ まちづくり委員会：地域住民が、地域の課題を共有するとともに、課題解決を目指して主体的に取り組むため、学区単位で設置

※ まちづくりサポート事業「SHIMOGYO+GOOD」：区民の方々等が地域力を活かして主体的に行う活動を支援する補助金事業

(2) 持続可能な地域コミュニティづくり

区民の交流促進や地域の歴史文化の継承による世代間の交流促進、様々なまちづくりの課題や危機的な状況に対し、住民同士が支え合う「共助」の取組により、危機を乗り越え、課題解決を図るなど、区民による持続可能な地域コミュニティづくりを支援します。

<取組例>

- 区民の交流促進，協働推進（区民ふれあい事業，区長 Meetup 等）
- 地域に残る歴史文化，伝統産業，祭り，生活文化等の次世代への継承と世代間交流の推進
- Web や SNS による住民同士の交流をリアルな交流に発展させるなど地域活動における Society5.0 の推進
- 新しい生活様式の下での地域活動（会合，夏祭り，地蔵盆，各種スポーツ大会など）支援
- コロナの影響で打撃を受けている地域の商店街，飲食店，宿泊施設等を地域で支え合う機運の醸成とキャンペーン展開等の地域一体となった取組への支援
- 地域の意見を踏まえた学校跡地の有効活用促進と支援

(3) 社会・地域課題を解決する仕組みづくり

多様化する社会・地域課題の解決を図るため，地域，事業者，団体，学生等が連携して取り組む課題解決に向けた活動を支援します。

<取組例>

- 地域課題解決に向けた地域と団体，事業者，学生等との連携支援
- 地域と調和した宿泊施設の普及支援
- マンション住民との交流促進，町内会加入促進

～区民による取組事例～

マンション入居者の町内会加入を促進 ー七条第三学区自治連合会マンション 対策委員会ー

七条第三学区では，子育て世代を中心に近年人口が急増する一方，工場跡地などに建設された大型分譲マンションの入居者で町内会に加入する人は少なく，学区全体の町内会加入者数は減少していました。そこで，学区の自治連合会は平成 28 年にマンション対策委員会を立ち上げ，主に分譲マンション入居者に向けて，町内会の加入・設立を促す活動を始められました。

これまで，マンションの管理組合に働きかけて説明会を開くなど積極的に活動され，人間関係を築く中で，委員会の活動に協力してくれる入居者も少しずつ増えてきました。町内会を助け合いの場と感じてもらえるよう，未加入のマンション入居者への呼びかけを継続して行われています。



▲加入促進のためのリーフレット

住民みずからさまざまな地域課題を解決 ー有隣まちづくり委員会ー

有隣学区では，マンションの急増をきっかけに平成 14 年に「有隣まちづくり委員会」が発足し，以来さまざまな地域課題の解決に向け取り組まれています。ワンルームマンション対策として地区計画の策定をはじめ，空き家対策・活用促進のための冊子や，急増する宿泊施設との共生を目指すマニュアルの作成など。近年は防災まちづくりの取組に力を入れ，防災まちづくり計画の策定や，オンラインでの防災まちづくりマップの活用など先進的な取組に加え，平成 30 年 7 月の大雨時に避難所を開設した経験から，地域住民との交流の場「ゆうりんカフェ」において避難所運営ゲームを行うなど，住民が参加しやすい工夫が盛り込まれ，まちづくり委員会の活動が地域に浸透しています。



※他の学区でも，まちづくり委員会が設立，活動されています（P5 参照）。

※ Society5.0：IoT(Internet of Things)，ロボット，人工知能(AI)，ビッグデータ等の新たな技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れてイノベーションを創出し，一人一人のニーズに合わせる形で社会的課題を解決する新たな社会

戦略2 はぐくみ文化の創造・推進

【方向性】

子どもや若者の可能性を広げるため、未来に希望を持ってたくましく成長できる環境づくりと、誰もが子育てしながら働き続けられる社会づくりを目指し、地域や支援機関、企業等も含めた全ての関係者が子育ての楽しさ、素晴らしさを共に感じながら、地域ぐるみで子ども・若者・子育て家庭を大切にするまちづくりを進めます。

★リーディングプロジェクト

★団体、企業等との連携により地域ぐるみで子育てを支援する「数珠つなぎプロジェクト」※の推進（1）

文化・芸術、暮らしの文化に関わる団体や企業等との連携を強化し、その活動を広く子育て家庭に届けることで豊かな感性や人間性を地域ぐるみではぐくむ環境づくりに取り組んでいきます。

★企業・職人等との連携による子ども・若者を対象とした職業体験や歴史講座等の実施（3）

下京区内の多種多様な企業や職人の仕事に触れる機会や、歴史的な魅力に触れる機会を通じて、子ども・若者が将来にわたり下京区内に住み、働き、学ぶ意識を育てます。

【推進施策】

（1）子どもと家庭をオール下京（区民・事業者・行政等）ではぐくむ環境づくり

あらゆる人や機関がつながって、子どもを社会の宝として地域ぐるみで楽しく子育てができるよう、妊娠期から切れ目なく、子どもとその家庭を身近な地域で温かく見守り支える環境づくりを進めます。

＜取組例＞

- より良い未来を子どもたちに送りたいと願う企業等によるイチバンボシギフト※との連携
- 子育て系ソーシャルビジネスとの連携（行政サービスでは補えない、小さな困りごと、日常の質問に答えられる支援）
- まち全体をキャンパスに見立てた教育プログラムなど新たな学びのスタイルの創出
- 団体・企業・地域の連携による「下京はぐくみ EXPO（仮称）」の開催
- 子育てサロンや地域の見守り活動など自主的な活動
- 児童館等の子育て支援機関と関係団体等との協力連携

※ 数珠つなぎプロジェクト：下京区全体で子どもの生きる力をはぐくみ、地域共生社会の実現を目指す取組

※ イチバンボシギフト：イチバンボシギフト実行委員会が行う、0歳児とその家族の誕生を祝し、愛のギフトBOXを届けるプロジェクト

（２）特に支援が必要な子ども・若者・家庭等への切れ目のない支援

孤立を防ぎ、誰もがその人らしく生きることができるよう、不登校、ひきこもり、虐待被害などの子ども・若者や貧困家庭・ひとり親家庭など、特に支援を要する子ども・若者や家庭等に対する切れ目のない支援を進めます。

＜取組例＞

- 「こども食堂」や「コミュニティ食堂」など安心して過ごせる居場所づくりの取組への支援
- 児童館や青少年活動センターなど、子ども・若者が気軽に相談でき、安心して過ごせる居場所機能の確保・充実
- 保護者同士のつながりの場づくり、保育士・栄養士・助産師等の専門家チームでお母さんを支える仕組みづくり
- コロナ禍で活動が制約される児童、学生等へのオンラインを活用した学び、交流の場の提供
- 不登校の子どもやひきこもりの受け皿づくりと才能の開花支援
- 虐待の予防や早期発見などのための地域のつながりの強化

（３）子ども・若者が様々な機会を与えられ、主体的に学び、育つ環境づくり

子どもや若者が多様な価値観を持ち、まちを愛する人に育つよう、学業やスポーツ、文化活動のみならず、職業体験や地域活動など多様な経験を通して達成感を得るとともに、自己肯定感を高めることができる環境づくりを進めます。

＜取組例＞

- 子ども・若者の地域活動や社会体験等を通じた、やりがいや楽しさの実感づくり、自己成長の促進

（４）働くことと子どもを産み育てることを両立できる社会づくり

子育てをしながら働きやすい環境づくりや柔軟で多様な働き方の実現など、真のワーク・ライフ・バランス※を実践する企業のすそ野を広げるため、新しい働き方のモデルを下京区から発信・提案します。

＜取組例＞

- 下京区から新しい働き方のモデルを発信・提案する「下京子育て応援企業・団体宣言」制度の創設

※ 真のワーク・ライフ・バランス：ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の考えに加え、「地域・社会への参加・貢献」に重点を置いた京都市が独自に提唱する考え方。

戦略3 誰もが生き生きと暮らせるまちづくりの実現

【方向性】

子どもから高齢者まで、障害のある人もない人も、お互いに認め合い、支え合い、誰ひとり取り残さない社会の実現に向け、世代や分野を超えて様々な人や団体等が連携し、住み慣れた地域の中で誰もが「笑顔」で自分らしく、生きがいを持ち、健康に安心して暮らし続けることができるまちづくりを進めます。

★リーディングプロジェクト

★「ひきこもりを考える講演会」や「家族交流会」等の開催及び個別支援の充実（１）

8050 問題等を背景に、様々な困難を抱え孤立しがちなひきこもり当事者や家族を、必要な支援につなげるとともに、ひきこもり等を家族だけの問題とせず、地域社会全体で取り組むべき課題としてとらえ、より早い段階から相談につながる環境づくりを推進します。

★「フレイルと生活習慣病の予防」による「健康長寿のまち・下京」の推進（２）

下京区の健康課題として特徴的な心疾患やがん等の生活習慣病の発症や重症化は、生活機能を低下させ、フレイルにつながる要因となり、その他数々の要因を含め、フレイル及びオーラルフレイルの予防に係る知識の周知、生活習慣病の予防のため健（検）診受診率向上、区民が実践できる健康づくりの啓発等の取組を推進します。

【推進施策】

（１）異文化や多様な生き方を認め合い、誰ひとり取り残さない支え合いのまちづくり

「顔の見える関係」を構築するため、多様な「居場所づくり」や地域における「見守り活動」を進めます。また、事業者との連携による就労や社会活動の実施など、障害のある人が地域でいきいきと自立して生活できる環境づくり、ひきこもりなど課題を抱える人やその家族に寄り添い、必要な支援に結び付ける取組を継続的に推進します。

＜取組例＞

- 「子ども・子育て世代」と「高齢者」間の世代のつながりづくり
- 事業者との連携による障害のある方が活躍できる事業モデルの創出
- 地域店舗との連携による高齢者等の買い物支援と見守り活動の推進
- 地域・行政・医療等関係機関や民間との連携による高齢者等見守りネットワークの充実、民生児童委員、社会福祉協議会等との連携による「京都市版地域包括ケアシステム」の一層の構築
- 医療・介護関係者向け研修会などによる、医療と介護の更なる連携の推進
- 社会福祉協議会やハローワーク等との連携による生活困窮者等の自立支援の一層の促進
- 高齢者、障害者の居場所、活躍の場づくり（伝統産業と福祉、農業と福祉の連携や商店街店舗での作品展等）、こころの病への理解を深める取組の展開
- すべての人の人権を尊重する人権文化の構築、外国籍区民がもつ異なる文化的背景や価値観等を尊重し、多様性を生かした協働によるまちづくりの推進（人権月間等での効果的な啓発など）

(2) 人生１００年時代を見据えた健康で心豊かに過ごせ、活躍できるまちづくり

すべての区民が生涯にわたって健康でいきいきと暮らし、社会や地域の活動に参加し、活躍できるよう、主体的な健康づくりに取り組む意識の啓発や介護予防の推進、新型コロナウイルスの影響により長期化する在宅生活での心と体の健康づくりを支援します。

＜取組例＞

- 笑顔による健康づくり「スマイルアップ下京」、自宅でできる健康づくりの普及促進
- 体育振興会連合会、スポーツ推進指導員会等との連携による各種スポーツ大会等を通じた区民の健康づくりの推進
- 自主的な健康づくり、介護予防の取組の実施
- 個人や家族等の年齢やライフスタイルに応じた食育の普及促進

戦略4 環境と調和した暮らしが根付く持続可能なまちづくり

【方向性】

京都市が取り組む2050年までの二酸化炭素排出量「正味ゼロ」の達成に向け、区民・事業者の価値観やライフスタイルの転換を進めるとともに、環境について学ぶ機会の創出や環境にやさしい実践活動の担い手育成を通じて、持続可能な循環型社会の実現を目指します。

★リーディングプロジェクト

★区内企業によるソーシャルプロダクツ*の発信支援，区民への利用推奨（2）

区内企業が開発・販売するソーシャルプロダクツの普及支援を通じて、区民の環境配慮への意識の向上とエコ分野におけるソーシャルビジネス促進を図ります。

★地産地消や自然・生物との共生の大切さ，地球温暖化対策，ごみ減量等について学ぶ機会の創出，環境保全活動の担い手づくり（3）

地域で地球環境問題への認識を高め，新たな環境保全活動の担い手を育成するため，環境保全活動に取り組む団体等と連携して，環境問題の様々な観点から学び，実践する機会の創出に努めます。

【推進施策】

（1）徹底した省エネやごみ減量，脱炭素社会に向けた取組の推進や門掃き，打ち水等，京のまちに息づく生活習慣の継続

「ごみを出さない，限られた資源を有効に活用するライフスタイル」の定着を図るため，「もったいない」「しまつ」といった，先人たちの精神や知恵を生かして「食品ロス」や「プラスチックごみ」の抑制などに取り組みます。

＜取組例＞

- 食品ロス，使い捨てプラスチック等のごみを中心とした2R（リデュース：発生抑制，リユース：再使用），リニューアブル等の推進及び分別・リサイクルの徹底
- まちの強みである学区単位の活動，自治会・町内会等の地域力を生かした地域密着型の資源物回収の取組の推進
- 「もったいない」「しまつ」といった先人たちの精神や知恵を活かした2R，分別・リサイクル，リニューアブル等の推進，門掃き，打ち水等の京のまちに息づく生活習慣の継続
- エコ学区の取組推進，地域での清掃活動（京都駅周辺エコ・クリーン作戦等），自然・生態系学習（高瀬川等），緑化活動（花いっぱい運動等）への参加

※ ソーシャルプロダクツ：エコ（環境配慮）やオーガニックなどに関連する人や地球にやさしい商品・サービスの総称で，生活者がよりよい社会づくりへの参加（社会貢献）が可能なもの。

※ リニューアブル：再生可能な，持続的利用可能な，という意味を示す。

（２）区民によるソーシャルプロダクツの利用促進をはじめソーシャルビジネスの普及

あらゆる区民や団体，事業者が一体となって，環境問題を解決するためのイノベーション，商品開発などに組み込み，それらの利用促進を図ることで，環境にやさしいライフスタイルを実現します。

（３）SDGsの理念をいかした地域レベルでの活動促進

地球環境と調和した持続可能な社会を実現するため，いのちの大切さや生物多様性について子どもの頃から実感できるよう，自然とふれあい，地産地消の大切さを学ぶ機会を創出するとともに，環境にやさしい実践活動の担い手を育成します。

＜取組例＞

- 商店街等での生鮮食品・惣菜購入時の「マイタッパー」の導入
- 地域の小売店を繋ぐプロジェクト（フードバンクを活用し，子ども食堂に提供）
- 伝統工芸やその素材等を通して自然環境保護やサステイナブル（持続可能）な社会づくりの大切さを知る機会の創出
- 事業者や区民による再生可能エネルギー由来の電力利用の促進
- 公共交通，自転車利用の促進，「歩くまち京都」の推進

戦略5 危機にしなやかに対応し「いのちとくらし」を守るまちづくり

【方向性】

自然災害等の危機にしなやかに対応できるレジリエントな地域づくりに向け、区民・事業者・行政等の一層の連携強化、ひとりひとりの防災や減災に対する意識の啓発等による「地域防災力」の向上に取り組み、災害に強いまちづくりを推進します。また、身近な地域における防犯・防火活動や交通安全対策を継続して実施し、子どもや高齢者をはじめ、誰もが安心安全に暮らせるまちづくりを推進します。

★リーディングプロジェクト

★工夫を凝らした防災啓発の推進（楽しみながら学べる防災訓練プログラム（体験型防災ゲーム）、防災・福祉まち歩き会、減災カフェ、避難所運営ゲームなど）（1）

地域で日常的に防災への意識を高め、有事の際の適切な避難行動につなげるため、ゲーム等の手法を用いて楽しみながら防災行動を学べるプログラムの各地域への展開を図ります。

★空き家・空き店舗の有効活用（子ども食堂、事務所、芸術拠点など）による空き家対策の推進（2）

防犯・防災上も危険な状況にある地域の空き家の解消を図るとともに、空き家を地域課題の解決や地域活性化につなげるため、空き家の有効な活用手法を地域、事業者、行政の連携により検討、創出します。

【推進施策】

（1）レジリエントな地域づくりに向けたオール下京（区民、事業者、行政等）で取り組む地域防災力の向上

区民、事業者、行政などあらゆる人や団体が世代や立場を超え、一丸となって、防災・減災意識の向上といざというときの備えや訓練に取り組めるよう、効果的な防災啓発やICT等の先端技術の活用、避難所利用に関する事業者との連携支援など災害に強いまちづくりを推進します。

＜取組例＞

- 「下京区民 水災害対応マニュアル」や危険箇所を示すハザードマップ等の活用による防災情報の共有、避難が必要な人の円滑な避難支援体制の構築
- スマートフォンを活用した防災マップなど、ICTの活用の検討
- 地域と協働した、防災・防犯をテーマとするソーシャルビジネスの創出
- 事業者の防災訓練への参加促進
- 事業者との災害時応援協定による連携強化
- 地域と宿泊施設との連携支援（災害時の避難所利用の協定締結）
- 「新しい生活様式」※を踏まえた形の避難所運営
- 地域の防災活動や防災訓練への積極的参加と、防災・減災意識と災害対応力の向上
- 地域の要配慮者（高齢者、障害のある人、子ども、外国人）への災害時の対応に向けた連携

※ 新しい生活様式：厚生労働省が提示する新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として今後、日常生活の中で取り入れる実践例を示したもの。

（２）下京に暮らす人、働く人、訪れる人、学ぶ人誰もが安心・安全に暮らせるまちづくりの推進

下京区に暮らす人・働く人・訪れる人等、あらゆる人が安心して安全に暮らせるまちづくりに向け、身近な地域において各種団体や学区等が連携し、防犯活動や交通安全対策、空き家対策などに取り組むとともに、各団体間の連携・協働を一層推進します。

＜取組例＞

- 区民ぐるみの安心安全なまちづくり、安心安全ネット継続応援事業（各学区への補助）の推進
- 少年補導，防犯，自主防災，防火活動等，活動目的が共通する団体間の連携・協働
- ビッグデータを活用した交通安全・防犯対策
- 区役所での空き家相談会，管理不全空き家対策
- 防犯パトロール活動をはじめ，玄関先への防犯標語の掲示やセンサーライトの設置など「見せる防犯」の拡大
- 高齢者の特殊詐欺被害，防犯に関する情報共有や日常的な声掛け
- 子どもの安心安全を守るための通学路における見守り活動

～区民による取組事例～

宿泊施設と一時避難の協定書を締結

－菊浜連合会－

菊浜学区は、木造住宅が多く道路が狭いため、災害時には深刻な被害が発生する恐れがあるとともに、近年学区内で宿泊施設が増加しており、地域との調和が課題となっています。また、学区内では西日本豪雨などにより、地域の防災意識が高まっていました。そこで、災害時に高齢者や障害者などの配慮が必要な地域住民の一時避難場所として宿泊施設を提供してもらえよう、菊浜連合会が学区内の宿泊施設に働きかけ、協定が締結されました。

新型コロナウイルスの影響により、避難所では感染拡大防止対策として3密の回避が必要とされ、避難所の収容力を確保するうえでも大変有効であり、今後も地域と宿泊施設が共存できる取組が広がることが期待されます。



▲協定締結の様子（令和2年7月）

戦略6 京都の元気をけん引するまちづくり

【方向性】

区内に集積する商業・伝統産業・文化等の地域資源の最大限の活用と、京都駅西部・東部・東南部のエリアマネジメントの連携促進により、経済・産業・文化が融合した新たな価値の創造など、京都の活力を牽引する創造的なまちづくりを進めます。

★リーディングプロジェクト

★下京区の東西エリアが交流・融合する「クリエイティブエリア」の創出（1）

京都芸大が移転する東部エリアと創業・イノベーション拠点等が集積する西部エリアの強味を活かし、区内各所に文化、芸術、産業など多様な分野が融合し、人材、企業等が活動する「クリエイティブエリア」の創出を支援し、地域との交流・連携を図ります。

★伝統産業職人と芸術系大学生の連携・コラボレーション（2）

区内の伝統産業職人と移転予定の京都芸大や美術工芸大学の学生が連携し、新たな伝統産業製品の開発や販路開拓につなげるなど産業振興を図るとともに、学生も伝統技術や商品開発の知識、ノウハウを学ぶなど職人、学生双方がメリットを享受できる取組を支援します。

★地域の多彩な歴史的・文化資源の掘り起こしと魅力発信、マイクロツーリズムの推進（3）

区民や事業者が区内の歴史的・文化資源の新たな発掘に努め、その魅力を広く発信することで、ウィズコロナ、アフターコロナ時代を踏まえた新たな観光手法としてのマイクロツーリズム（地元、近隣への観光）の推進を図ります。

【推進施策】

（1）世界にはばたく起業家を支援するスタートアップの聖地・下京の推進

新たな市場や価値を創造する「クリエイティブエリア」を目指し、世界にはばたく起業家の受け入れを支援するとともに、地域文化や芸術など異分野との交流を通じた新たな価値の創造やソーシャルイノベーション（社会・地域課題を解決する革新的な方法・技術）の創出を促進します。

＜取組例＞

- 京都リサーチパーク地区内に集積する産業支援機関、京都経済センターを拠点とする経済団体等との連携によるスタートアップ創出や地域企業の活動支援
- 創業・イノベーション拠点（淳風 bizQ）や芸大移転を機に整備されるスタートアップ創出拠点と地域との連携・交流推進
- 京都市ソーシャル・イノベーション研究所（SILK）との連携による社会課題・地域課題の解決、イノベーションが生まれるエコシステムの構築
- 地域の事業者や起業家との交流・連携による新たな価値創出への寄与

（２）京都芸大移転を活かした芸術活動と地域・生活文化の融合

京都芸大や美術工芸大学などの芸術系大学・学生と地域との連携を進め、芸術活動と地域・生活文化が融合することにより、まちの魅力の発信、地域課題の解決等につなげます。また、その活動を通じて学生が地域に愛着を持ち、京都に住み、地域に根差した活動ができるよう支援します。

＜取組例＞

- 学生が地域に出て学ぶ仕組みづくり、学生による地域の課題解決の取組推進
- 「まちなかギャラリー」などアーティストの活動の場の提供（店舗、空き店舗、お寺、KRP 中庭等）
- 文化庁の京都移転を契機とした、伝統文化、現代芸術、くらしの文化から文化遺産まで、区民が多様な文化に触れ、次代へ継承する機会の創出
- 京都芸大や芸術家、起業家などを地域に迎え入れ、支える機運醸成と環境づくり（活動の場、雇用、定住）への協力

（３）地域と調和した京都駅、梅小路周辺の更なる賑わい創出と回遊性向上

京都駅や梅小路公園周辺の宿泊施設や集客施設、東本願寺前市民緑地など新たな賑わい施設と地域とが、共に調和して共存できるよう、区民の安心安全に配慮し、地域文化の継承に貢献するとともに、新たな地域資源の発掘等による身近な観光ルート創出や回遊性向上を図ります。

＜取組例＞

- 下京・京都駅前サマーフェスタ、梅小路みんながつながるプロジェクトなど民間等と連携した取組の推進
- 京都市中央卸売市場再整備に伴う「賑わいゾーン」活用事業等による梅小路京都西駅周辺エリアの回遊性向上
- 東本願寺前市民緑地整備を契機とした朝市等の開催による朝観光の創出、門前町の活性化（法要等を契機とした門前町商店の連携）
- 西部エリア、東部エリア、東南部エリアなど京都駅周辺の各エリアのネットワーク強化、広域的な人の流れの創出
- 下京区観光パッケージの開発（活動団体や旅行業者と連携して、ゲストハウス、飲食店、芸術スポット、「知る人が知る下京区の魅力」スポットなどをパックにして提供）とオンラインツアーの開催支援
- 観光客や区民が楽しめる地域資源を活用した文化体験
- 和ろうそくを活用した「しもぎょう伝燈祭」、和傘を活用したイルミネーションなど伝統産業製品を活用した夜観光の創出
- 高瀬川再生プロジェクトと連携した、高瀬川の歴史的・文化的つながりを活かした地域活性化支援
- 地域の歴史・魅力の掘り起こしと発信、魅力的なエリアと活動する人々同士のネットワーク化
- ウィズコロナ、アフターコロナ時代の観光客への新たなおもてなしの創出
- 区内商店や事業所サービス等の積極的利用
- 地域の魅力を改めて見つめ直し、３密を避けながら地元ご近所や近隣で楽しむ旅行

(4) 地域コミュニティの核となる持続可能な商店街づくり

商店街と学生等との連携により、芸術活動の発表や地域資源の掘り起こしによるブランディング化など、商店街の魅力と発信力を高め、区民や観光客を呼び込みます。商店街に人が増えることにより、空き店舗の活用や後継者の育成が進み、更に客を呼び込む好循環を目指します。

<取組例>

- 芸術系大学、高校とのコラボによる定期演奏会の開催、作品発表の場としての店舗活用等による商店街の魅力向上
- 学生との連携による商店街の地域資源を活かした名物商品の創出・販売促進、観光誘客の推進
- 持続可能な商店街に向けた取組（空き店舗の活用、後継者の育成、地域資源を活かした商品開発等）

～区民による取組事例～

京都芸大との協働の取組

令和5年の京都芸大の崇仁地域への移転に向け、これまで住民や芸大生によるさまざまな取組が進められてきました。移転整備により解体される元崇仁小学校での芸大卒業生等の作品展や小学校にまつわる資料の展覧会、芸大生が中心となって店舗のデザイン等を行った「崇仁新町」、東部エリア活性化に向け芸大院生等との連携で発行した情報誌など。また、市営住宅の一角には芸大出身作家によるアトリエ、プロジェクトルームが開設され、アートや地域情報が発信されるなど、芸術の輪を地域に広げるとともに、芸大関係者と連携した地域活性化の取組が進んでいます。



▲ふれあいひろばでの
芸大ブース出展の様子

コロナ禍での飲食店応援、 身近な観光に関するまちづくり活動の取組

下京区まちづくりサポート事業「SHIMOGYO+GOOD」では、新型コロナウイルスの課題解決を図る提案事業を募集・採択し、活動を支援しています。コロナ禍で課題を抱える地域の飲食店、商店街を応援するため、新たな出店機会の提供や商店街、周辺飲食店のマップづくり、食やホテルをテーマとした産業モデルの創出などさまざまな取組が展開されています。また、海外や遠方からの観光ツアーが困難な中、区内の隠れた観光スポットやおすすめの宿をWeb上で紹介するオンラインツアーなど、身近な観光促進の取組も進められ、区民の利用による地域活性化効果も期待されます。

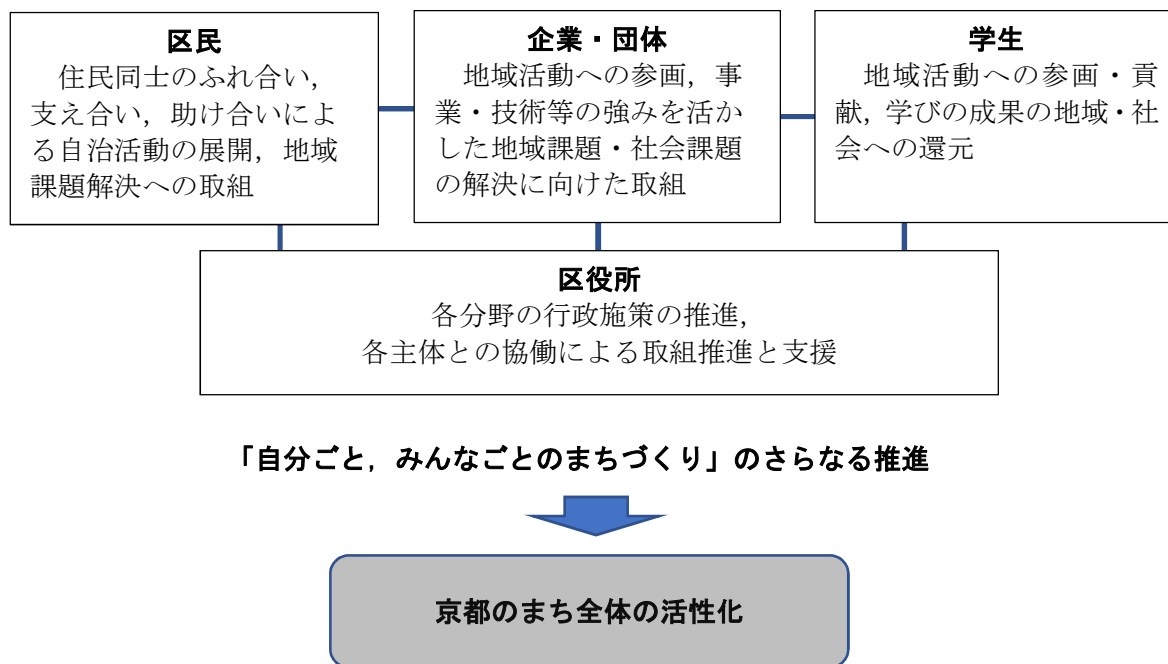


▲今の京都を届けるオンラインツアー
SHIMOGYO+GOOD 実行委員会

8 計画の推進にあたって

(1) さまざまな主体の役割分担と協働により計画を推進

計画の推進にあたっては、区役所、区民、企業・団体、学生等がそれぞれの役割を果たすとともに、各主体が連携・協働して重点戦略1～6に掲げるリーディングプロジェクトをはじめとした取組を「自分ごと、みんなごとのまちづくり」として進めることで、京都のまち全体の活性化に結びつけます。



(2) 推進体制

①下京区民まちづくり会議による進捗確認

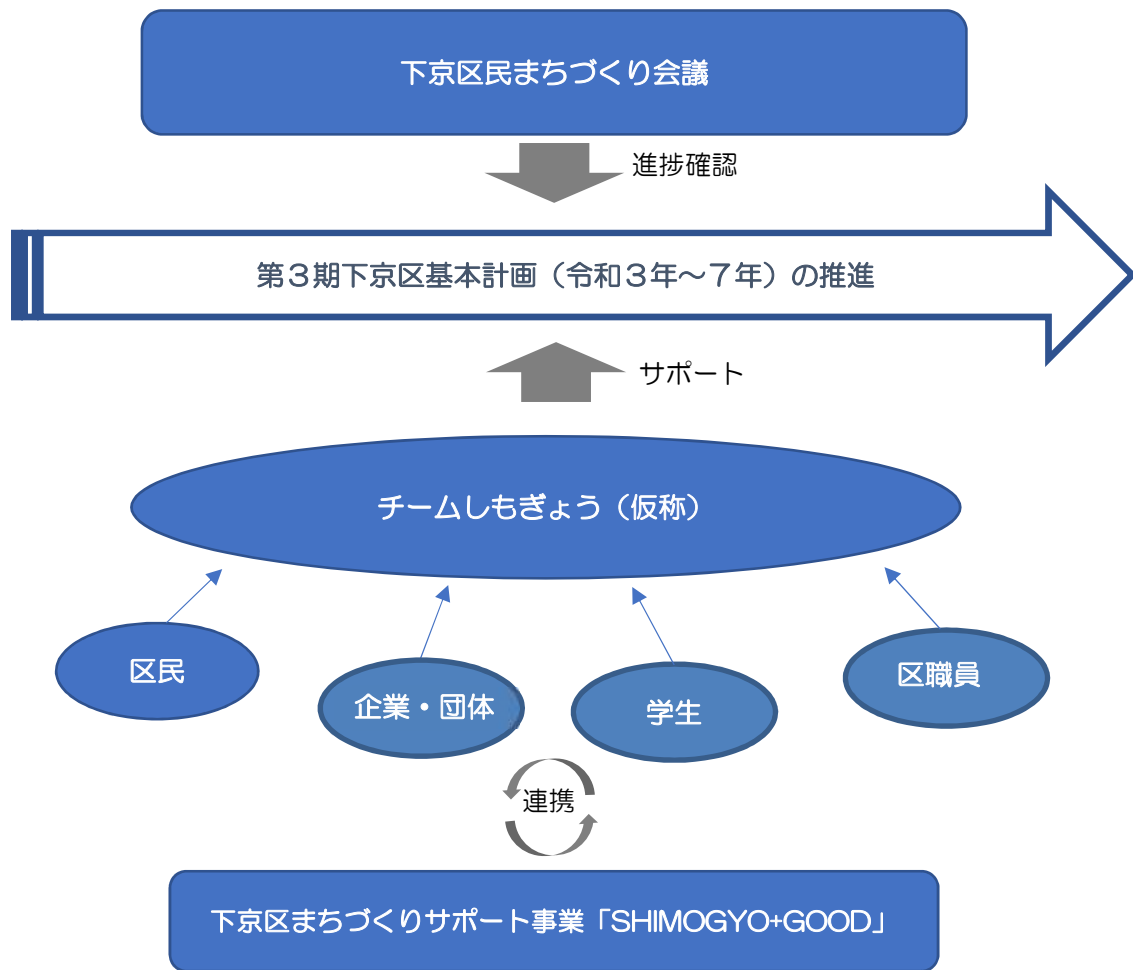
計画の推進にあたっては、毎年度、下京区運営方針において推進の具体的な方針や施策、事業をお示しし、下京区民まちづくり会議において、進捗状況の報告・確認を行い、今後の推進方策等について議論します。

下京区民まちづくり会議の構成については、140周年記念事業で培われた様々な団体、企業等との連携を活かし、これまでの自治連合会、市政協力委員連絡協議会、各種団体に加え、新たに学識者、経済界、産業支援機関、事業者、大学に参画いただくことを検討します。

②チームしもぎょう（仮称）によるサポート

計画を効果的に推進するため、下京を愛する区民、企業・団体、学生、区役所職員からなる「チームしもぎょう（仮称）」を組織し、区の情報発信や地域の魅力発信をはじめ、計画の各戦略に掲げる取組を進めます。また、下京区まちづくりサポート事業「SHIMOGYO+GOOD」の活動団体や事業成果とも連携し、地域課題解決等が継続的に図られるようバックアップします。

下京区基本計画推進体制



9 参考資料

(1) 計画策定の経過

令和元年 10月3日	○第1回区民まちづくり会議 第2期計画の総括及び次期計画のための重点テーマに基づく部会を設置
	○区長Mee t u p（区長懇談会） 持続可能な地域コミュニティのための方策について、ワークショップ形式で議論
10月4日	○下京みらい数珠つなぎプロジェクト グループに分かれてワークショップを開催
11月13日	○第1回区民まちづくり会議部会 部会ごとにそれぞれのテーマに関して議論
12月9日	○下京アフターアワーズ（まちカフェ事業） いただいた御意見を重要テーマの意見として採用
令和2年 1月16日	○第2回区民まちづくり会議部会 それぞれの分野を超えて連携・協働出来る取組について議論
3月4日	○第3回区民まちづくり会議部会（書面開催） 重要テーマごとの方向性、取組等について書面での意見提出を依頼
9月14日	○令和2年度第1回区民まちづくり会議 計画骨子（案）について議論
11月30日 （予定）	○令和2年度第2回区民まちづくり会議 計画素案について議論
令和3年 3月下旬～	パブリックコメント
6月	○令和3年度第1回区民まちづくり会議 計画最終案について議論
7月	計画策定

(2) 京都市下京区民まちづくり会議委員名簿（掲載予定）

(3) 京都市下京区民まちづくり会議部会委員名簿（掲載予定）